

ダウン症 発達障害 知的障害 重症心身障害

ひとりで悩まず、相談を！

当センターでは様々な活動を支援しています

いきいき新聞

8月号

津山市地域づくりサポートセンター 津山市大田920 リージョンセンター内 電話27-0600

発行



ホームページ QRコード



印刷機あります 有料用紙持ち込み

※裏面もご覧ください！

交流を深めよう！

ダウン症児親の会

「あひるの会」は岡山県北部のダウン症児親の会です。主にダウン症をはじめ心身障害児の療育と社会福祉向上、人権保護をはかることを目的としています。活動や療育を通じて子どもたち、ご家族との交流を深め、情報交換を行っており、親のあとをヨチヨチと追いかけるひよこの可愛らしさと、しっかりと

岡山県北を中心に活動をしている当団体は今年で32年目を迎え、会員数は60家族になりました。現在、新型コロナウイルスの影響でイルス感染症の影響であまり集まれています。岡山県北を中心に活動をしている当団体は今年で32年目を迎え、会員数は60家族になりました。現在、新型コロナウイルスの影響でイルス感染症の影響であまり集まれています。



書のアート作品づくり

平成22年のクリスマス会をきっかけに津山市の書家・山下度華さんが毎年、3月21日の「世界ダウン症の日」に合わせて書のアート作品のワークショップを行っています。この日を心待ちにしている会員もおり、作品は書道展で展示され、多くの方の目に留まっています。

当団体のヒップホップダンスユニット「ダックスターズ」は体を動かすことが大好きなメンバーで結成され、月に1度の練習として、年に4〜5回ほど地域のイベントや福祉施設の行事などでダンスを披露しています。活動がスタートした当時はダンス指導の先生も苦労があったそうですが、今では踊る楽しさを通して



ダックスターズ

自分を見ることが親と子ども、みんなの「経験」が「自信」へつながる。「丁寧に活動していくことが大切。大事なことを話すのだから会うことが一番大事。相談は年齢関係なくできる。すぐに何か解決するわけではないかもしれないけれど、何かは話せる。誰でも気軽にきてね」と想いを話してくださいませ。

経験が「自信」へ

知的障害・発達障害 重症心身障害

「津山手をつなぐ親の会」は、津山市に在住の知的障害、発達障害のある本人とその家族をつなぐことを目的とし、平成20年に発足しました。立ち上げ時の会員数は7〜8組でしたが、今現在は50組になりました。お互いの課題や悩みを共有し、支えあう事の出来る仲間作りや、行政や関係機関とのネットワ

ークを作ることで、本人や家族が必要な支援に結びつくことを願い活動をしています。今回は手をつなぐ親の会 会長の二本さんにお話を伺いました。当団体は、親の会定例会、本人部会、なかもあず定例会、あいうえお会、定例会(重症心身障害児・者の会)と、年2回の研修会を開催しています。



なかもあず

しいこと、歌うことが大好きなメンバーが「なかもあず」として活動を行っています。障害のある本人達からは「自分たちで出来ることは自分たちでやってみよう！」を合言葉に、積極的に取り組んでいます。「モノリザユカク！ワークショップ」の開催や、去年参加した美術大学 学園祭「白梅祭」では野外ステージで歌と踊りを披露しました。その中の1曲「勇気100%」は、発表の際の定番曲



モノリザを描きました

地域でのこうした活動を通して、障害への理解と啓発を行っています。成長を共有して色んな

な子を見ることで親と子ども、みんなの「経験」が「自信」へつながる。「丁寧に活動していくことが大切。大事なことを話すのだから会うことが一番大事。相談は年齢関係なくできる。すぐに何か解決するわけではないかもしれないけれど、何かは話せる。誰でも気軽にきてね」と想いを話してくださいませ。



「段ボールピザ窯でピザを作って食べよう！」からプログラムは始まり、子どもから大人まで参加者みんなで手分けして手作りピザに挑戦。外で焼いた出来立てのピザの味は格別だったようです。午後からは、近くの川で川遊び。河原では、スイカ割りやカキ氷が振る舞われました。今年梅雨明けが遅く、天候が心配されましたが、夏の日差しを感じながらのイベントとなり、夏の思い出作りとなりました。

地域交流イベント♪ 高校生が参加！ 津山東高校の生徒が、8月1日(土)鏡野町中谷地区で「なかにであそぼ！」と題した、地域の子どもたちとの交流を深めるイベントに参加しました！イベントには地域の子どもたちが約20名、そして運営スタッフとして高校生が16名参加しました。